

平成 22 年度予算特別委員会・行財政局（平成 22 年 3 月 1 日）

質疑者 北山 順一

1. ネーミングライツについて

平成 22 年度の予算で、教育委員会の複数の施設においてネーミングライツが導入されるとのことだが、市のたくさんある施設のほんの一部にしか過ぎず、また他局での新たな取り組みは全く示されていない。

昨年 9 月の決算特別委員会において、副市長は行財政局が中心となって取り組むとの答弁をされたが、この状況をどのように考えているのか、伺いたい。

また、東京都渋谷区、最近、新聞にも載っていたが J R 大阪駅構内などでは、ネーミングライツを導入した様々なトイレが設置されていると聞く。本市においても、観光交流都市として、民間の知恵とネーミングライツを融合した有料トイレを新長田の鉄人 28 号の若松公園、北野・有馬、さらには「かもめりあ」などに設置し、新たな観光名所としてはどうか。ネーミングライツの有用性に鑑み、さらに研究を深め、新たな活用方針を各局に示しリードすべきではないか、見解を伺う。

答弁者 小柴副市長

先日の本会議でも市長からご答弁申し上げたとおり、ネーミングライツは、新たな投資を伴わない無形財産の有効活用という大きなメリットがあることから、昨年 11 月の「平成 22 年度予算の編成について」の副市長依命通知において、ネーミングライツなど新規財源の確保を図ることを指示するとともに、12 月には行財政局から各局に対し、局所管施設へのネーミングライツの導入について具体的な検討を求めたところである。

このような中、新たな動きも出ており、平成 22 年度には教育委員会が所管する青少年科学館や王子スタジアムなど数施設でネーミングライツを募集する予定にしている。

教育委員会以外の他局での新たな取り組みが示されていないとのご指摘であるが、行財政局としては、その結果を踏まえ、局と一体となって新たな導入が具体化できるよう検討していきたいと考えている。

さらに、トイレについてのご提案もいただいているが、他都市の事例をみるとトイレに限らず様々な施設に導入が広がっており、このような事例をよく研究し、行財政局として局に対して働きかけることも考えていきたい。

そして、そのほかの施設についても、導入可能なものは積極的に実現を図りたいと考えており、公共性の担保を前提に、少しでも多くの財源確保が図れるよう工夫していきたい。